

伝灯奉告法要協賛
仏教青年連盟結成50周年記念の集い

2016（平成28）年10月9日

大会報告書

50th Anniversary !!!!!



『大会テーマ』

温 故 知 新

うけつぐ伝灯 伝えるよろこび



50周年記念のつどいのテーマは、伝灯奉告法要の大会テーマ「うけつぐ伝灯 伝えるよろこび」に呼応し、また今まで仏教青年連盟を支えてくださった諸先輩方をリスペクトする意味で、松本光生仏教青年連盟中央委員長が提案した「温故知新」に決定。

ロゴマークやポスターなどのデザインは荻隆宣仏教青年連盟指導講師が制作。今大会は仏教青年連盟のみならず、仏婦、仏壮、少年、スカウトの各連盟の協力を得ていることから、ロゴマークは日本の伝統的な印である「三巴」をさらに発展させた「四巴」という印を作り出した。ロゴに採用した色も日本の伝統的な色重ね「つばみ菊（紅と黄）」と「紫苑（薄色・青）」を使うなど、全体的に和の印象を強調することとなった。

『大会ポスター・フライヤー』

浄土真宗本願寺派仏教青年連盟

結成五十周年記念の集い

いざ 京都 西本願寺へ

うけつく伝灯 伝えるよろこび

2016.10.9

～ あらゆる世代の方がご参加いただける集いです ～

このたびの「記念の集い」は、過去仏青にご縁のあった方、仏青に興味がある方など、どなたでもご参加いただけます。

参加ご希望の方は全国の浄土真宗本願寺派寺院、各教区教務所または本願寺仏教青年連盟 TEL075-371-5181(代)までお問い合わせください。詳細は <http://yba.hongwanji.or.jp> にてご確認をお願いいたします。

仏青連盟

『大会日程』

2016（平成28）年10月9日（日）

12:00 受付・写真撮影（北境内地休憩所）

14:10 記念式典（本願寺御影堂）

- 開会宣言
- 大谷光淳ご門主さま お焼香
- 勤行『正信念仏偈』
- ご門主さま お言葉
- 石上智康仏教青年連盟会長（総長）挨拶
- 歴代中央委員長・指導講師紹介
- 感謝のことば（松本光生実行委員長）
- ご門主さまへ花束贈呈（松本光生実行委員長）

14:45 記念講演（本願寺御影堂）

ネパール開教事務所長
ソナム・ワンディ・ブティヤ師
講題「温故知新」

15:15 オリエンテーション

15:30 北境内地・聞法会館へ会場移動

16:00 記念行事

- 教区仏青・教化団体ブースコンテスト（聞法会館3F 他）
- NUM-NUM GIRLS ライブ（多目的ホール）
16:00～ 17:10～
- ともしえ 影絵法話（多目的ホール）
16:20～ 17:30～
- ワークショップ（北境内地休憩施設）
 - ・消しゴムはんこ（麻田弘潤さん）
 - ・筆箒演奏（深親亮介さん、黒木祐子さん）

18:05 閉会式

- ブースコンテスト発表
- 閉会宣言

19:00 仏青交流会（聞法会館3階）

仏青大同窓会（東急ホテル）



大谷光淳ご門主様お言葉

このたび、仏教青年連盟が結成50周年を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。創設以来、運営に携わってくださった皆さまはじめ、活動にご参加くださった皆さまに敬意を表し、感謝申しあげます。また、本日は記念の集いにあたり、皆さまにはお忙しい中、ようこそご参加くださいました。

さて、仏青連盟が結成された当時と現在では、社会状況をはじめ様々なことが大きく変化しました。その中でも特に、仏青の対象となる人たちを取り巻く環境は全く違うものとなっています。今朝の新聞に、滋賀県大津市のいじめ相談窓口の相談件数の4割はいじめに関すること、あとの6割は先生や友達、家族との関係、また貧困などに関する相談であるという記事が掲載されていました。これを見れば、時代や社会状況が変わっても、やはり多くの方々が悩みや苦しみを抱えながら生きているということがわかります。しかし、お寺や仏青の活動に参加し、同世代の人たちと共に語り合い、共に行動するという方はまだまだ少ないのが現状のようです。

その一方で、お寺や仏青とご縁を持つてくださっている方々は、浄土真宗のみ教えや、み教えを共に聴く仲間との出会いを喜んでおられます。お寺や仏青活動を通して、多くの若い方々にみ教えを伝えることはたいへん意義のあることであり、そのためには、若い方々にお寺の魅力やみ教えが伝わるための工夫が必要です。

今日ご参加くださいました皆さまには、今後ますます仏青活動が盛んになりますよう、さまざまな面でお力添えをいただきたいと思います。これからの50年に向けて、皆さまと共に多くの若い方々にみ教えが伝わるよう、共々に努めてまいります。本日はようこそご参加くださいました。

2016（平成28）年10月9日

浄土真宗本願寺派門主

大 谷 光 淳



石上智康

仏教青年連盟会長（総長）

挨拶

本日は「伝灯奉告法要協賛 仏教青年連盟結成50周年記念の集い」に、ようこそご参加くださいました。

このたびの集いを「第25代専如門主 伝灯奉告法要」のご勝縁にあわせて開催できましたことは、誠に有り難いことでございます。また、仏教青年連盟の結成50周年にあたる記念すべき集いとなり、たいへん慶ばしいことでございます。

開催テーマは「温故知新」うけつぐ伝灯 伝えるよろこび」であります。現在、仏青会員として活躍中の方をはじめ、これまで活動されてきた方、また、仏教婦人会総連盟や仏教壮年会連盟、少年連盟、本派スカウト指導者会などの他の教化団体の皆さんにもご参加いただき、世代・団体を越え、ご縁のある方々と共に、うけついできた歴史を振り返り感謝するとともに、次の時代に向け新しい活動のあり方を模索し伝えていくという思いがこめられております。

この集いを機縁に、法灯を継承されましたご門主様のご教導のもと、ここに参集された皆様がそれぞれに絆を結び、大切なご縁の輪を広げていただくことを念願することでございます。

そして、是非この席で皆様方にご紹介を申しあげたいがございます。

伝灯奉告法要は、この10月1日よりお勤まりになつておりますが、初日のご法要、式典におきまして、ご門主様からご親教をいただきました。そのご親教の題は、「念仏者の生き方」であります。このご親教「念仏者の生き方」の中で、ご門主様は3つの点を懇ろにご教示いただいております。

1つは、仏教のものの見方、考え方、真理観。これは時代と歴史を超えて、いつの時代にも普遍する、この世の中の真実であります。その仏教の根本的な真理観について、極めて簡潔に分かり易くお示しいただいております。2つめは、浄土真宗におけるみ教えの中心であります、阿弥陀様のお慈悲の有り難さ、その尊さをお示しいただいております。阿弥陀様のお慈悲がなぜ有り難いか、それはそのお慈悲、智慧は絶対であるからであります。私どもは、尊い阿弥陀様のお慈悲をいただくとともに、ただそれで終わるのではなく、念仏者の生き方が、お念仏をいただく、み教えをいただく、我々の、念仏者の生き方がどう在るべきであるかという点にまで触れて、懇ろにお示しをいただいております。それが3点目



です。その大事なところを紹介いたします。

「仏さまのような執われのない完全に清らかな行いではできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。」このようにお示しいただいております。大変尊い

有難いご教示であります。どうぞぜひ皆様方、ご門主様がお示しく下さいました、「念仏者の生き方」全文をお読みいただき、今後の日常生活における幸せの基本、生きる依りどころとして大切にしたい。そして、日々の行いの依りどころとして、大切にしていたきたいということをお願い申しあげる次第でございます。

本日はようこそご参集くださいました。そして、おめでとうございます。

松本光生 仏教青年連盟中央委員長 感謝の言葉



この度の大会を迎えるにあたり、2つの感謝の言葉をのべさせていただきます。まず、本年は私たち仏教青年連盟が結成され50周年を迎えることができました。この会と出遇ったおかげにより、今、私は仏さまの教えを、たくさん仲間たちと共に慶ばせていただいています。私の場合、友人に連れられて、不安を抱えながら飛び込んだその時から、それまでにない仏教的な考え方や、たくさん仲間たちを、この団体は与えてくれました。

こうして考えてみると、50年という長さは漠然とした時間ではなく、その時々先輩がたの出遇いの積み重ねで、できあがっていました。先輩がた、ありがとうございます。これまで以上にたくさん仲間たちと出遇い、より仏さまの教えを聞き続けていくことをもって感謝の心を表していきたいと思えます。

そして2つ目の感謝の言葉は、大谷光淳ご門主様へ申しあげます。長らく仏教青年連盟総裁をお勤めいた

だき、本当にありがとうございます。全国大会には必ずお越しいただきました。時には、会議や研修会にご参加いただき、共に食事をとらせていただいたこともありました。そして数々のご提言をいただきました。正直、総裁様というのは、もっと遠い存在だと思っておりました。こんなにも同じ時を過ごしてくださったことは、驚きでした。

この度、本願寺第二十五代門主として、伝灯奉告法要に臨まれているお姿を見て、慶びの気持ちと、もう総裁様とお呼びできないことの寂しさもあります。今まで我々をご指導くださり、本当にありがとうございます。これからもお導きくださいますよう、お願い申し上げます。

ご門主さま、先輩がた、今まで本当にありがとうございます。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

2016(平成28)年10月9日

仏教青年連盟中央委員長

松本光生



記念講演

講題「温故知新」

ネパール開教事務所長
ソナム・ワンディ・ブティヤ師

記
念
講
演

皆さんこんにちは。半年ぶりに日本語を喋っています。日本語がどれくらいできるか分からないですが、頑張ってお話してみたいと思います。本日は私が浄土真宗と出遇った話をしてみたいと思います。

もともと私はチベット仏教の僧侶でした。3歳の頃に得度を受け、ずっとお寺の修行や瞑想、お勤めや仏教の勉強ばかりしてきた私です。ですから大きく変わってからも仏教、仏様の教え、お釈迦様の教えは悟りを開く教えでした。悟りを開くことはなかなか難しいことでした。私は悟りを開くためにいろんな修行をしました。山に籠り、川のそばで瞑想をしました。木の下に座って瞑想をしました。しかし、なかなか心は変わらない。ちょっとは変わるけど、村や街に行ったらまだ心はそのままでした。

私は実を言えば迷った僧侶でした。仏教は本当の教えなのだろうか、この教えの中で心が変わることがあるのだろうか。ずっと迷ってどうしようかと、一生懸命修行しても心はそのまま。欲望がある。煩惱がある。煩惱が全然無くない。そのような時、お釈迦様も山やいろんなところで修行され、山

から下りて菩提樹の木というインドに今でもある木の下で修行をして悟られたことを、私は感じてきました。そして、私も菩提樹の木の下に何かあるのだろうかと思って、菩提樹の木の下に何回も何回も行って瞑想をしました。瞑想をする時は大丈夫なのです。何も考えずに心は楽になる。でも瞑想が終ると、またあちらこちらのいろんな物が見えてしまう。見てしまったら欲望が出る。あれも欲しい、それも欲しい、あれが食べたい、それが食べたい。それで本当は仏教は嘘なのかと、お釈迦様は嘘をついているのではないかと、その様に迷っている私でした。

今から17年前、私はブッタガヤというお釈迦様が悟りを開いた菩提樹の木の下で瞑想をしていました。その時私が出遇ったのは、北九州の方だったのです。お坊さんではない在家の、車椅子に乗られた日本人の方でした。首から下が動かない方と出遇いました。私から見ると、その方はものすごく苦しんでいる様に見えました。自分では歩けない。でも、お釈迦様が悟りを開かれた場所に、車椅子で一生懸命動かれている。かわいそうだなと思い、瞑想から出て、話しかけてみようと思いました。

そして話しかけたら、たまたま英語で話すことができました。なかなか日本人は、英語を喋らないです。英語で話すと逃げてしまいます。「NO！NO！NO！NO！NO！」と言って逃げてしまいますが、その方は英語で話してくれたのです。「Where are you from?」と聞くと「I'm come Japan」と英語で返してくれました。「どうしてそのような体になったのですか?」と聞くと、20歳の時、九州に帰る途中、家に着く300m手前で事故に遭い、このような体になってしまった。

私から見ると大変で、ものすごく苦しんでいるなと思ったのです。私はその頃22歳でした。ずっと仏教を勉強して、仏教というのは、お釈迦様の教えというのは、幸せになる教えと言っているのですが、僕が幸せではなかったのです。ずっと煩惱、欲望がなくならないから、心配や疑問ばかりだけれども、私よりも彼が苦しんでいる。彼は悩んでいる。心配を抱えている。自分で歩くことができない。自分で食べる。誰かがお世話してくれる。私は元気で歩ける。自分で食べる。誰かがお世話してくれる。何か仏教の教えを伝えないと、この人

生もつたいたいと、自分は迷っているけど、まだ仏教の心が強いから。思っていました。

それで仏教のいろんな話をして「あなたは苦しんでいるでしょう、あなたは悲しみがあるでしょう、あなたはこういう体になって大変でしょうね」そういう話をしていると、その返事が凄くて驚かされました。「私は大変じゃないですよ。私は苦しみも何もない。私は幸せです。私は嬉しいですよ。びっくりしました。何が嬉しいのでしょうか」

か。何処も嬉しいように見えない。あなたの姿を見ると、あなたは一番悲しみ苦しんでいる。私はお釈迦様の教えと出遇って本当に良かったです。この教えでないと私は本当に苦しんでいる。そこでその彼の話をずっと聞きました。

「私は20歳の時に事故に遭ってずっと部屋の中で苦しんでいた。ただ、自分の近くにあるお寺、教念寺さんというお寺の住職が何回もお参りに伺われた。その際に一冊の本を渡された。仏

教をどのように理解するかという本でした。それでその本を読んでいたら、自分ももっと仏教のことを知りたい、先生方の話を聞きたい、そのような気持ちで初めてできて、教念寺さんに何度も通い、お聴聞をするようになった。」とおっしゃいました。

お聴聞をして、仏教・お釈迦様はこういう風に言われている。私の教えというのは心の薬だよ。心に伝える薬、心を元気にさせる薬、心の悩みは全部無くなる薬。心の心配を全部無くして、安心する薬。お釈迦様の教えというのは、一度で分かるかどうかは分からない。その薬は毒になる。すぐに治りたいと思って1ヶ月分の薬を一度に飲んだら、その薬は毒になる。お釈迦様の薬も、一度ではなく、少しずつ頭にいられて心まで伝える。心に伝えたらものすごく味があるのです。仏の教えの中に味が出るのです。味が出ないと私みたいに迷ってしまいます。危ないのです。味が出るまでお聴聞するということなのです。ですからその方も少しずつお聴聞をして自分自身を平等に見るようになった。私も救われる。誰でも救われるという平等の教え。仏様の教えは平等です。



ですから、私はそのような教えを聞いてびっくりしました。』どのような教えの中でそのように嬉しくなるのですか。私たちは煩惱そのもので、あなたも煩惱があるでしょう。私は煩惱がたくさんありますよ。なぜ嬉しいとかお浄土にいくことができるのか、そんな簡単に浄土にいけるはずがない、ちゃんと修行しないと。」と私はびっくりしました。どんな教えがあるだろうか、と、何度も話をしてみました。その話の中で、南無阿弥陀仏というお念仏のことができませんでした。そこで本願他力の教えを初めて聞きました。

そのような南無阿弥陀仏だけであなただを救うことはできないと、私は最初信じていなかった。凄く修行しているのに簡単に南無阿弥陀仏の念仏で救われるということ信じることができない。私がその時に修行をやめてしまっていたら、その南無阿弥陀仏は危ない毒になっていたかもしれない。南無阿弥陀仏は何だろうと疑い続けた。それでその先生と話し続け教えを学ぶことで日本語を勉強するようになりました。

その時、南無阿弥陀仏、念仏とは何だろう、それだけ調べたい。それでは



救われるのだろうか。それが一番浄土真宗です。浄土真宗、親鸞聖人の教えというのはもの凄くレベルの高い教えなのであります。味が出るまでは難しく、味が出ると簡単です。味が出ないと、迷ってしまいます。本当に救われるかというように心が迷ってしまっただけなんです。私は幼い頃から修行をしてきた。ですから南無阿弥陀仏の念仏で救われるとは理解しがたい経験をしました。

日本語を勉強して、京都に来ているんなお寺に法話を聴きに行きました。そして中央仏教学院に入りました。私は、少し赤い衣を着ています。インド東南アジアに行くとお坊さんの衣の色は黄色か白か赤になるのです。私も本願寺派で得度をしてネパールに黒の衣を着て帰りました。法話をしても門徒の皆さんは私の衣ばかり見ている。「その衣が黒いのはどうしてですか？イスラム教じゃないですか？」と言われたこともあります。東南アジアでは黒はイスラム教のイメージです。頭の中に仏教と言ったらすぐに赤か白か黄色がイメージされる。本願寺がこのような色の布袍を出してくれて丁度良かったと重宝しております。

ところで南無阿弥陀仏の疑いは、いつまでたっても晴れぬままでありました。阿弥陀様の前で念仏を称えてみても救われた気がしない。何回も何回も聴聞してみると味が出てくる時間がある。自分で感じることもある。私が感じた南無阿弥陀仏は皆さんと少し違いかもしれません。私が物凄く感じてきたのは、南無阿弥陀仏というのは物凄く考えても考えられない救いのパワーがあるということ。念仏パワーがあるということ。物凄く時間がかかって出

来あがった名前。簡単にできていない六字名号。四十八願全てが南無阿弥陀仏の中に動いている。どんな煩惱があるうとも関係なく救われる力がある。私が考えることができない、誰にも考えつかないパワーがある。この世が終わっても、そのまま働いている考えられない力である。

南無阿弥陀仏は日本語ではない。サンスクリット語でもない。どんな言語でもなく、お釈迦様の口から自然に出た言葉だったのです。私から言うところの言葉は仏の言葉であり、説明することができない。この言葉は簡単なマジックのパワーではない。物凄く長い時間であり、1年、10年、100年、1000年、10000年かけてもできていない、長い長い時間かけて出来あがった、南無阿弥陀仏。

この教えを簡単だと捉えては危ない。感じたら簡単。味が出たら簡単。味が出ないと危ない。私の迷った仏教は、南無阿弥陀仏と出遇ったとき、出汁のようになりました。これまで仏教をどれだけ勉強しても、修行しても、瞑想しても、何を食べても美味しくない。ただお腹がいっぱい

になるだけで味が無い。念仏の味が出ると、最高の出汁になる。どこに入れても美味しくなります。

それで仏教というのは心の薬です。仏の教えというのは、宗教ではないのです。心の教育です。迷っている心、心配している心、怖い心、悩んでいる心、全部無くしてくれる教え。少しずつ薬みたいに飲む。お釈迦様が仰ったとおり飲む。『念仏というのは物凄いパワーがある』とネパールのお坊さんが言っていたので全部分かります。』と言ったら、それは危ない毒になります。パワーと言っていたけど何だろう、どのようなパワーがあるのだろうか、深く深く入ってみたい、簡単に捉えてしまつてはいけません。

ですから、私もこの教えに出遇って、得度を受け、教師、開教使となり自分が元氣になっていったのです。念仏に出遇って良かった。向坊さんが体の不自由を通して教えてくださいました。おかげで私は念仏と出遇えました。彼に何かを教えてあげようと話に行ったら、逆にいろんなことを聞かせていただいた。そのように私は浄土真宗に出遇い、今現在はカトマンズ本願寺の事務所長をしています。

去る3月6日から前門様ご臨席のもと、カトマンズ本願寺の落慶法要がお勤まりになりました。広島や福岡など日本全国から300名ほどの方がお参りくださいました。ネパールでこの念仏の教えをどのように伝えていくのか。浄土真宗の教えの要である本願力は心の支えになります。

カトマンズ本願寺ではおよそ500名の20代から40代の方が、み教えを慶びお聴聞をしてくれています。東南アジアでの浄土真宗が広がりがつつあります。この浄土真宗の教えというのは占いを必要としない。嘘がない。ただ大事なのは仏の教え。多くの人びとにこの尊い教えを聞き伝えていきたいものです。本日は有り難うございました。

願以此功德 平等施一切
同発菩提心 往生安樂国





ブースコンテスト



NUM-NUM GIRLS



影絵法話 - ともしえ



ワークショップ

ブースコンテスト優勝！

T O Y A M A
富 山 教 区

富山教区ダーツの旅



ブースコンテスト 準優勝！

B I N G O
備 後 教 区

トリックアート





KAGOSHIMA
鹿児島教区

ブースコンテスト第3位!

リアル脱出ゲーム



安芸教区
ブースコンテスト惜しかったで賞!

PEACE おりがみ

T O K Y O
東京教区

東京五輪投げ



H O K K A I D O
北海道教区

ほっかいどうでしょう



K O K U F U
国府教区

投げ物屋台



N A G A N O
長野教区

三大珍味



TAKAKA
高岡教区

仏 青 エ ン ニ チ



N I I G A T A
新潟教区

に い が た ご 当 地 ク イ ズ



F U K U I
福井教区

吉 崎 七 不 思 議



I S H I K A W A
石川教区

熊 本 地 震 災 害 義 援 金 募 金



K Y O T O
京 都 教 区

クイズ漢字で書いてみよう



T O K A I
東 海 教 区

ふ れ あ い 物 産 展



W A K A Y A M A
和 歌 山 教 区

WSK50 鷺 森 別 院
子 ども 会 カ ル タ



O S A K A
大 阪 教 区

教 区 活 動 ・ 名 所 紹 介



YAMAGUCHI 山口教区

松蔭先生を救え！



H Y O G O 兵庫教区

当たりますか？安心して下さい
当たりますよ！



FUKUOKA 福岡教区

言葉さがしゲーム



H O P P O 北豊教区

北豊どっきり！大作戦



S A G A
佐 賀 教 区

手 作 り ゲ ー ム



O I T A
大 分 教 区

わ な げ



K U M A M O T O
熊 本 教 区

飛 ば す !! 復 興 へ の 想 い



N A G A S A K I
長 崎 教 区

と と と と ? すーすーす? あな た も
き っ と か る たーシ ョ ッ ク 長 崎 弁 カ ル タ



KYUSHU BLOCK 九州ブロック

九州アドベンチャーツアー



MIYAZAKI 宮崎教区

宮崎デザインの島ぞうり



大会記念行事の楽しみ方

シールとスタンプ①②③④を集めて
大会記念限定品をゲットだぜ！

①

参加者同士でシールを交換して地図の中に貼ろう！
大会記念品をもらうためには、すべてのブロックで
最低1枚のシール（5色のシール）が必要だ！



②

ワークショップ（消しゴムはんこなど）のブースへ行って
スタンプをもらおう！

③

各団体（仏教・仏教・スカウト）のブースへ行って
スタンプをもらおう！

④

歴代中央委員長（胸に花のリボンをつけている人）から
金のシールをもらおう！

シールとスタンプが集まったら記念行事会場内にある受付に提出しよう！
抽選で素敵な特製大会記念グッズ（限定品）をプレゼント！

S H O N E N

少年連盟

レクリエーション
ツールの展示と実演



G I R L S C O U T

ガールスカウト

沙羅の会・利き茶



B U P P U

仏教婦人会総連盟

フェイスペイント



B U S S O

仏教壮年会連盟

活動紹介・名物お菓子配布





麻田弘潤

参加者がハンコを押して1つの作品を完成させた

ワークショップ
消しゴムはんこ

ワークショップ 雅洋楽演奏



深親亮介 × 黒木祐子

箏篋とピアノのコンサート

NUM-NUM GIRLS LIVE!

演目：「夏の終わりの NUM-NUM TIME」「さよなら先輩」ほか





演目：親鸞聖人伝絵
～出家学道～

影絵法話 - ともしえ



⑥閉会式（聞法会館 3 階多目的ホール）18:10 ～ 18:20

ブースコンテスト結果発表

1 位（商品券 5 万円） 富山教区

2 位（商品券 3 万円） 備後教区

3 位（商品券 1 万円） 鹿児島教区

惜しかった（うまい棒） 安芸教区

閉会宣言（松本実行委員長）

⑦交流会 19:00 ～ 21:00

現会員：聞法会館 3 階多目的ホール

・ O × クイズ

・ 挨拶（荻講師）

O B ・ O G 会員：京都東急ホテル

・ 物故者追悼セレモニー

・ 総局（霍野廣紹総務）、実行委員長挨拶

・ ミニライブ（三浦明利）

4. 対象者 仏教青年会にご縁のあるすべての方、また今後ご縁のできそうな方
※ただし、東急ホテルの交流会は O B O G が主な対象

5. 参加者 6 1 4 名【内訳】参加者 5 1 9 名
(年代別：10 歳未満 15、10 代 65、20 代 148、30 代 151、40 代 52、
50 代 34、60 代 18、70 代 1、80 代 1、不明 34 計 519 名)
(教区別：北海道 15、東北 3、東京 30、長野 9、国府 6、新潟 6、富山 36、
高岡 22、石川 19、福井 16、岐阜 14、東海 26、滋賀 9、京都 10、奈良 15、
大阪 25、和歌山 13、兵庫 8、山陰 14、四州 0、備後 61、安芸 22、山口 16、
北豊 23、福岡 11、大分 16、佐賀 5、長崎 11、熊本 11、宮崎 17、鹿児島 27、
沖縄 3 計 519 名)
教化団体等協力者 3 4 名（仏婦 8、仏壮 6、スカウト 13、少年 5、宗教教育部 2）
招聘者 3 0 名（ナムナムガールズ 17、ともしえ 4、記念講演講師等 9）
スタッフ 3 1 名（委員・講師等）

6. 会 場 式典・記念講演 御影堂
記念行事 聞法会館・休憩施設
交流会 現役会員 聞法会館
O B O G 会員 京都東急ホテル

7. 記念品 大会レジュメ「まこと」1 5 3 号、シールセット、防災セット、油とり紙、記念行事案内図、
法要のしおり

以上

伝灯奉告法要協賛 仏教青年連盟結成50周年記念の集い [実施報告書]

1. 趣 旨 第25代専如門主の伝灯奉告法要にあたり、仏教青年連盟結成50周年を機縁に世代・団体を越え、仏教青年連盟にご縁のある方々と共に、次の50年に向け、新しい仏青活動のあり方を提案する。
2. テーマ 温故知新～うけつぐ伝灯 伝えるよろこび～
3. 日 時 2016（平成28）年10月9日（日） 法要期間外
- ①受付・写真撮影（北境内地休憩所） 12:00～
 - ②御影堂へ移動・映像（DVD）上映「これまでの歩み」
 - ③式典（本願寺御影堂） ※直前の帰敬式のため10分遅れ
14:10～14:40
 - 一. ご門主さま ご臨席
 - 一. 開会宣言（松本実行委員長）
 - 一. 勤行（正信偈）
 - 一. ご門主さま お言葉
 - 一. 石上智康仏教青年連盟会長（総長） 挨拶
 - 一. 歴代中央委員長 紹介
 - 一. 歴代連盟指導講師 紹介
 - 一. 感謝の言葉（松本実行委員長）
 - 一. ご門主さまへ花束贈呈（松本実行委員長）
 - 一. ご門主さま ご退席
 - ④記念講演（本願寺御影堂） 14:45～15:15
講師 ソナム・ワンディ・プティヤ 師（ネパール開教事務所長）
講題 温故知新
 - ⑤オリエンテーション・移動
 - ⑥記念行事（聞法会館・北境内地休憩施設）16:00～18:00
 - (1) 音楽イベント 各2公演（3階多目的ホール）
 - ・ NUM-NUM GIRLS（ナムナムガールズ）
「夏の終わりの NUM-NUM TIME」、「さよなら先輩」等
 - ・ ともしえ（影絵・法話）
「親鸞聖人影絵伝～出家学道～」
 - (2) 各教区仏青・教化団体ブースコンテスト（3階研修室①・3階ロビー・北境内地休憩施設）
※各教区仏青や、仏婦・仏壮・スカウト・少年各連盟が特色を活かしたブースを出展。
参加者の投票によってコンテストを実施（出展教区27教区、4教化団体）
 - (3) ワークショップ（北境内地休憩施設）
 - ・ 消しゴムハンコ（麻田弘潤）
※参加者がハンコを押して大きな作品を完成
 - ・ 筆箒とピアノのコンサート（深親亮介・黒木祐子）
 - (4) シール集め（聞法会館・北境内地休憩施設）
※参加者や歴代中央委員長がシールを交換、各教化団体ブース、ワークショップに行っ
てはんこを押し、参加者同士の交流をはかる。



浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟

伝灯奉告法要協賛「仏教青年連盟結成50周年記念の集い 大会報告書」

編集・発行：仏教青年連盟 広報教材委員会

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派 宗務所内 TEL：075-371-5181(代)